

注意点1



右手

ニュアンスを出すカギは ミュート音の発音にあり!

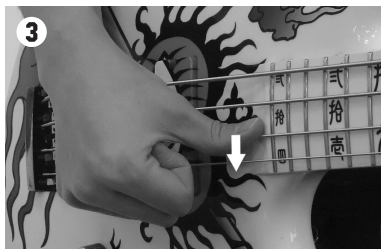
メイン・フレーズでは、左手によるミュート、ダウン・アップ奏法、3ブルといったテクニカルなスラップを使用する。1小節目は、1拍目が実音のサムピング→左手によるミュート→実音のサムピング→左手によるミュートで、2拍目が4弦のミュート音のサムピング→1弦開放のブルで、それ以降ダウン・アップ奏法になる(写真①～④)。2拍目ウラ拍のダウンによるミュート音→アップでのハンマリング後の弦移動に気をつけよう。また、拍子のオモテとウラが取りづらい【註】ので、フレーズを身体に覚え込ませながら、練習するとよいぞ。こういうフレーズは、“ミュート音をカッコ良く出す”ことが決め手になるので、音程のない音ほど神経を集中して弾くことが大切だ!



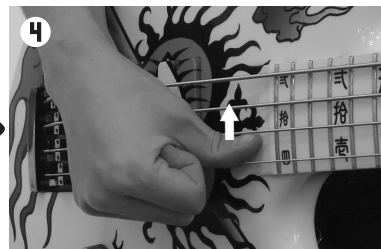
① 4弦のミュート音をサムピングした後は……



② 1弦開放をブルで鳴らす。



③ ここからダウン・アップ奏法に変えて、まずダウン。



④ 2弦5fをアップで弾き、その後ハンマリングを行なう。

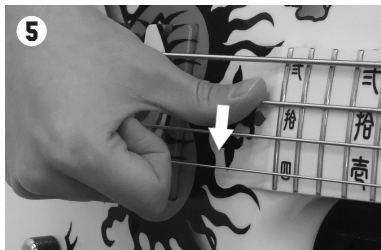
注意点2



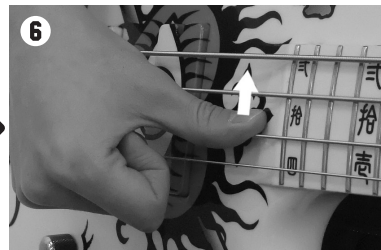
右手

ダウン&アップ+ブルによる ロータリー奏法を覚えよう

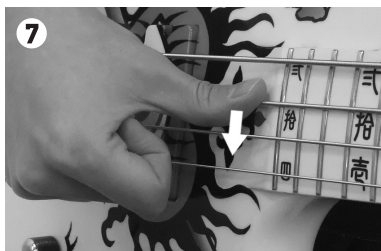
メイン・フレーズ4小節目1～2拍目は、実音のサムピング→左手ミュート→4弦のミュート音のサムピング→3ブルに切り替えて、3弦を親指のブル→2弦を人差指のブル→1弦5フレットを中指のブル→ハンマリングで7フレットへ繋ぐ、という流れになる。特にサムピングから3ブルへの切り替えに注意しよう。3&4拍目は、ダウン・アップ奏法を活用するロータリー奏法となっていて、3弦をダウン→アップ→ダウンと刻んだ後、1弦をブルで弾く(写真⑤～⑧)。スピードの速いダウン・アップ奏法にブルを組み合わせたロータリー奏法は、難易度がかなり高いので、しっかり練習することが大切だ。



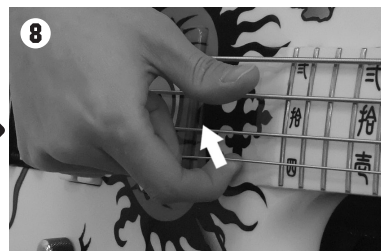
⑤ ロータリー奏法。まず3弦をダウンで弾き……



⑥ 続いて、3弦をアップする。



⑦ 再び、3弦をダウンした後は……



⑧ 1弦をブルで弾こう。スピード感を出せるように注意!

～コラム12～

将軍の戯れ言

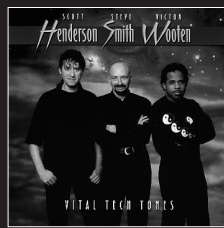
ベース界で、ロックの絶対王者をビリー・シーンとするならば、フュージョンの絶対王者はヴィクター・ウッテンになるだろう。両者はともにテクニックに注目が集まりやすいが、実はリズム(ビート)が安定していて、グルーヴも素晴らしいベーシストだ。ヴィクター・ウッテンは、ロータリー奏法を使った高速スラップで世界中のベーシストに大きな影響を与えたが、タッピングを多用したり、メロディックなソロを奏でたりするなど、非常に懐が深いスタイルを持っている。また個人的には、多弦ベースを使わず、4弦ベースをメインにしている点にも男気が感じられ、好感を抱いているのだ。

著者・MASAKI、かく語りき ヴィクター・ウッテン編



ヴィクター・ウッテン 『What Did He Say?』

ヴィクター・ウッテンの2ndソロ・アルバム。テクニカルな部分を持ちながら、全体的にはポップな要素が強い充実作だ。



スコット・ヘンダーソン、スティーヴ・スミス、ヴィクター・ウッテン 『Vital Tech Tones』

凄腕3人による超絶インスト作。ロック色の強い圧倒的なフュージョン・サウンドを堪能できる。